

切除不能進行肝細胞癌に対する分子標的薬の効果・予後・有害事象に関する観察研究

1. 研究の対象

2009年5月以降、当院で切除不能進行肝細胞癌に対して分子標的薬による加療を行った患者さん

2. 研究目的・方法

2009年5月にソラフェニブが切除不能肝細胞癌に対して本邦で保険適応となり、当院でも150人程度の患者さんに治療を行ってきました。近年、ソラフェニブに加えて2017年6月にソラフェニブ治療後の2次治療としてレゴラフェニブが、2018年3月にレンバチニブが1次治療として承認され、今後も数年以内にソラフェニブ治療後の2次治療としてカボザンチニブ、ラムシルマブが日本国内でも使用できるようになるとされています。こういった状況において、いかに分子標的薬を適切に使い分けるかを考えることが重要になっています。

本研究は当院で切除不能肝細胞癌に対して分子標的治療を行った患者さんの治療効果や副作用をまとめ、既報や他施設の結果と比較して、現在の投与方法を見直すことを目的としており、延いては次世代の分子標的薬の適応を考える際の基礎データとして意義のあるものと考えています。(研究期間：倫理委員会承認後～2025年3月31日)

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：性別、年齢、既往歴、治療内容と日付、血液生化学検査所見、肝生検病理所見、腹部エコー・CT・MRI・PETなどの画像所見

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒534-0021 大阪市都島区都島本通2丁目13番22号

TEL 06-6929-1221 FAX 06-6929-3341

研究責任者：地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター

肝臓内科 天野 優雅